※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. 181

【様式２】

エントリー学校名：
福岡県久山町立久原小学校

活動名：
主体的に学ぶ校内研修（12 文字以内）
メンタリングによる研修を通して（16 文字以内）

解決すべき課題：小学校では，過労死ラインの残業をしている教諭が 33.5%おり，若年教諭を育てる余裕がなく，研修のための新たな時間確保が難しい。これまでの研修では，研究主任が研究主題を設定し，その検証授業として年１回の授業公開を行っていた。しかし，本校では若年教諭が増えており，超過勤務の現状を改善する視点からも研修方法を見直す必要があった。そこで，一人ひとりが自分自身の授業に関する課題と向き合い，勤務時間内で主体的に授業改善を図る研修体制に転換する必要がある。

目標・方針：これまでの全員が集まって研修をする方法を一旦やめて，自己管理型の研修にする。それぞれの教員の授業に関する課題に応じて，即効性のある研修を工夫していく。具体的には，スキルや経験が少ない人（メンティ）がスキルや経験が豊富な人（メンター）と双方が合意の上でペアを組み，授業公開を通して授業改善を図るメンタリングによる研修を設定する。授業公開日や教科領域については，それぞれのペアで相談して自由に設定できるようにする。授業前の事前検討会から授業後の反省会もペアで進めていくようにする。

活動内容：まず，指導案の代わりになるメンタリングシート（資料１）を開発した。次に，具体的な手立てを設定するための課題選択シート（資料２，３）を開発した。メンタリングによる研修では，授業前にペアで相談してメンタリングシートを作成して全職員に配付し，授業公開した。基本はメンティが公開するが，示範としてメンターが公開することもあった。事前に授業公開日と教科をアナウンスするので，先生方は自分が見たい授業を気軽に参観した。授業後は，メンタリングシートをもとに反省会を行い，メンタリングシートを書き上げ全職員に配付した。このサイクルを自分が納得いくまで，或いは学びたい教科領域毎に何度も授業公開を行った。

活動の成果：まず，自分でメンターを指名できること，何度も授業ができること，自分の課題に応じて教科領域を選べることについて，多くの先生方から好評で，積極的に授業公開を行っていた。本年度授業公開していない教科領域は家庭科だけであった。また，特に若年教員は，授業の基本から学べるので，即効性のある研修だったようである。さらに，自分より年齢の若い教諭をメンターとして指名するメンタリングも行われた（写真２）。この研修では，先輩であるメンティの授業について後輩のメンターが指導助言をするので，後輩のメンターは事前に相当勉強し，やりがいと責任感をもってメンタリング研修を進めていた。「先輩に何か言うとなるとめちゃくちゃ勉強しました」という感想を多く聞いた。このように，若い先生も人を指導する経験を通して成長するということが明らかになった。本研修は，メンティもメンターも双方が成長する研修であると言える。

アピールポイント（アイディアや工夫）：
○本研修では，これまで家庭科以外の全ての教科・領域が授業公開されている。また，第１回の学級会が授業公開されたように，普段中々見ることのできない授業を参観することもできた。
○コロナ禍の現在でも１学期から全職員が授業公開を行っており，コロナに影響されない研修である。
○本研修では，若い先生を，指導してもらって育てることと，人に指導する機会を設けて育てることの両輪で育成することができる。

資料１：メンタリングシート

久原小学校ＯＪＴ　メンタリングシート　第　1　回目

なのはな 1組　授業者（ メンター） 田代 智子 先生（ メンティ ） 金本 喜穂 先生	
公開日の日時・場所・本時	5 月 1 7 日　第 4 校時 なのはな1 組教室 本時 5 ／ 1 2
教科「単元・主題・題材名」	国語科「たんぽぽ」

〈主眼〉
たんぽぽの花のひみつを見つけるために，「一つの花のように見えるのは，小さな花のあつまり」「小さな花を数えてみたら，百八十もありました。」という大事な文を見つけたり，実際にたんぽぽの花を数えたりする活動を通して，実感を伴って内容を理解することができる。

〈授業設定の意図〉
本授業は，特別支援学級における授業づくりについて知りたいというメンティの要望を受けてのものである。私自身も，個の実態が異なる子どもたちに教科書を使って指導を行う時に，一人一人に合わせた指導をする（活動構成を仕組む）ことができていない課題がある。そこで，この機会に，個の実態を把握し，一人一人に合わせた学習活動や，特別支援学級の学習で大切にしている体験活動を取り入れた授業づくりを行いたい。そして，子どもたちが「なるほど！」「もっと，知りたい！」と学習に意欲的に取り組み，体験と教材文を関連させて内容を理解することができるようにしたい。そのために，本単元は「たんぽぽ」の教材を使って，実際にたんぽぽを使って確かめる活動を行い，体験と本文を関連させて内容を理解することができる授業づくりをしたい。

〈本時，特に高めたい項目〉 判定基準 4…9割 3…8割 2…5～7割 1…5割未満		判定(4～不可)	
項目番号	シートの構想力・組織力から2～4つ選択又は具体化，焦点化する。	授業者	メンティ
A③	年間指導計画や個別の教育指導計画、個別の教育支援計画をもとに，学習内容を理解するために，毎時間，体験活動を取り入れるなど単元構成の工夫を行うことができる	3	4
B④	本文を読んで大事な文を見つけて視写をする活動や実際にたんぽぽの小さな花を数える活動など子どもにとって必然性のある体験活動を取り入れて指導することができる。	4	4
B⑪	自分の考えをつくることが困難、自分の感想を書くことができる、言葉のまとまりで音読することが課題など、子ども一人ひとりの実態に合わせた学習プリントを作成することができる。	3	4

授業・リフレクションを終えての「振り返り」と「次回に向けて」

「特別支援学級の授業作りについて知りたい」という要望を受けて，授業をさせていただいたが，そのお陰で，子どもたちの実態把握や教材と向き合うきっかけとなり，とても勉強になりました。特別支援学級の学習では，体験活動を通して，実際を伴った理解を大切にしています。2年生の3名は，実態が異なります。今回，実態の異なる子どもたちに対して，教科書の教材文を使った学習を行うのは，「実になる学習時間にしたい」と思い，ある意味，挑戦に近い授業でした。今回は，語彙力を増やしたり，新たな知識を身につけたりすることに主眼を置いたので，じっくりと教材に浸りながら進めました。45分の学習時間では，①教材文を読む（音読，ひみつ見つけ，視写）②教材文の通りに試しの活動を行う③振り返りを行うというパターン化した活動を仕組んだことで，子どもたちは見通しをもって学習に取り組みました。1時間1時間，音読やひみつ見つけを自分でできるようになっていて，驚きました。また，体験活動を取り入れたことで，「たんぽぽ」がより身近な植物となり，「花」や「くき」などの部位の名前を知るだけでなく，「もっと，知りたい」と，興味をもって学習に取り組むようになりました。学習プリントの作成にあたっては，言葉のまとまりで音読しやすいように，言葉のまとまりで改行をした本文をプリントにしました。また，大事な言葉に着目できるように，視写をするスペースをマス目にすることで，正しく視写することができているのか自己評価できるように工夫しました。子どもたちは，マス目に合わせて，視写することができるようになっていきています。リフレクションでは，授業作りで大切にしていることとして①個の実態把握②子どもの目有り安心を設定する③実態に合わせた支援の在り方を見つける（学習内容、教具など）④支援の有効性を確かめて実践しているとお話しました。金本先生は，質問や悩みを積極的にお話されるので，子どもたちのことを常に考えて，とても熱心だなあと刺激を受けています。今回のOJT研修を通して，同じ特別支援教育の担任として，課題や悩み、喜びを共有しながら子どもたちの力につなげていきたいなと思いました。

授業・リフレクションを終えてのメンティから

運動会前という多忙な時期にもかかわらず，研修を快く引き受けてくださり丁寧に教えていただきました。一人一人の実態から指導を丁寧に考えられているとともに，学習上の支障となるものを取り除き，子どもが学習に集中できるような環境が整えられており，配慮がすごいと思いました。私が今回特に学ばせていただいたのは以下の5点です。①全面の掲示物や黒板がシンプルである。特に黒板は題名、めあて、流れを示すもののみで必要最低限のものだけでした。②今日の学習のページに付箋をする。子どもたちがスムーズに学習に取り組めるように、一人一人の学習ノートに付箋が貼ってありました。③板書とプリント/ノートを同じにする。黒板を見て、ノートを作る時に少してもスムーズに書き写すことができるようにしていました。④学習の見通しを持ちやすい。黒板に今何の活動をしているのか「音読」「ふりかえり」などのカードで示されており、児童が安心して学習に取り組めるのではないかと思いました。⑤視覚的な支援の多さ。黒板や教室のまわりの掲示物どれを見ても、写真や色などと文字だけでなく資料が沢山示されており、児童が一目見て学習をふり返ることができるようになっていました。その上、学習の足跡にはそれぞれの顔写真がつけられており、子どものことを考えた細かな配慮がすごいと思いました。また、実際に「たんぽぽ」の花を数えるこで、数の多さや花のスケールなど実感を伴った理解ができていました。この活動をみて改めて体験活動の大切さについて感じることができました。次の私の実践では、個の実態把握に力を入れ、実態に合わせた支援ができるようにしていきたいと思います。

資料２：課題選択シートＡ

久原小学校　課題選択シートA（授業前後用）

※　達成判断　4…約9割以上　3…約8割　2…5～7割　1…5割未満

		授業における実践的指導力の内容項目	子どもの事実からの判断
授業前（教材研究）	単元計画	①子どもの興味や関心を大事にした単元構成を工夫することができる。 ②子どもの思考の流れを大切にした単元構成ができる。 ③学んだことを活用するよさ，発展，習熟まで構想した単元構成をすることができる。 ④校内研究，あるいは個人の研究テーマを実証する単元計画を作成することができる。 ⑤他教科・領域との関連を図ったカリキュラムマネジメントができる。	①目的意識や課題意識をもって学習に取り組んでいる。 ④目指す子どもの姿と本時の姿や仮説がつながっている。 ⑤ノートや掲示物から，考えやめあてが連続発展している。
	目標設定	⑥本時の目指す子ども像を明確にし，目標を具体的に設定できる。 ⑦学習指導要領の内容を押さえて，的確な目標を設定できる。 ⑧学習指導要領に示された３つの観点から，目標をかき分けて設定できる。	⑥発言やノートの記述と目指す子ども像とが対応している。
	教具	⑨子どもの課題意識を誘発する教具，学習具，資料を開発する。 ⑩教科書に示されたものより，よりねらいの達成に迫る新たな教具，学習具，資料を開発する。	⑨～の教具や学習具，資料から，問いをもつ姿が見られる。 ⑩～の教具や学習具，資料から，目指す子どもの姿が見られる。
	活動構成	①子どもの課題意識を誘発する活動構成を設定できる。 ②子どもの思考を深め，問題解決に迫る活動構成の設定ができる。	①子どもが問いをもって学習を進めている。 ②子どもの思考が拡散・深化している。
授業後（評価）	評価	③新しい単元に入る前に，関係する学習内容の理解や技能について実態を把握するための調査を行い，学級全体や個の実態分析ができる。（診断的評価） ④ルーブリック評価（学習の達成度を表を用いて測定する）を作成し，評価することができる。（アクティブラーニングにおける評価） ⑤仮説の内容について，客観的な資料を作成し，授業目標の達成度を考察・評価できる。	③自分ができていることと不足していることをとらえている。 ⑤子どもが達成すべき目標を具体的に理解している。

資料３：課題選択シートＢ

久原小学校　課題選択シートB（授業展開）

	授業における実践的指導力の内容項目	子どもの事実からの判断
導入段階	①子どもの学習意欲や追求意欲が高まる導入を工夫することができる。（動機づけ） ②子どもたちが，学習の見通しをもち，子ども自身でめあてをつくるなど，子どもが主体的に学ぶ授業展開ができる。	①どの子どももわかるめあてとまとめになっている。 ②見通しがある子どもがつくっためあてとまとめになっている。
展開段階	③○○科の基本的な授業づくりと授業展開ができる。（他の教科と比べると授業づくりに自信がないので指導してほしい） ④～に重点をおいたメンティーの課題，○○科や領域での示範授業を行う。 ⑤各教科がねらう思考力・判断力・表現力を高める授業展開ができる。 ⑥学習の学び方を大切にした授業展開ができる。 ⑦子どもが自己追求する活動時間を保障した授業展開ができる。 ⑧子どもの思考を活性化する活動構成を工夫し授業展開できる。 ⑨主体的・対話的で深い学びの授業展開ができる。 ⑩授業仮説に基づいた授業展開ができる。 ⑪教師と子どもが一体となった授業展開ができる。 ⑫交流が盛り上がる授業展開ができる。 ⑬ペア交流やグループ交流を効果的に生かした授業展開ができる。 ⑭書く力，ノートをまとめる力を高める授業展開ができる。 ⑮指示を的確に，発問を精選し，教師が話しすぎない授業ができる。 ⑯子どもの考えや学習の内容を，まとめたり線や矢印で関係づけたりしながら，構造的なわかりやすい板書ができる。 ⑰学習意欲が低い子ども，支援が必要な子ども，学習が早く終わってしまう子どもに配慮した授業展開ができる。 ⑱子どもたち一人一人の学習の様子を見ながら，的確な働きかけや支援ができる。 ⑲少人数やＴＴ指導，グループ学習，ワークショップなど，学習形態を工夫した授業展開ができる。 ⑳子どもの発言を受容し，教師の表情や評価の言葉で褒めたり驚いたりし，子どものモチベーションが高まる授業ができる。（授業中の教師の声かけ・評価） ㉑１時間の授業に山場のある（盛り上がりのある）授業展開ができる。	④～の活動から，本時目指す子どもの姿が見られる。 ⑥どんなことをするのか分かって活動している。 ⑦子どもの思考の拡散・深化がノートや発言から分かる。 ⑪目的をもって互いに考えを聞き合い，新たな気づきを得ている。 ⑫子どもの思考の拡散・深化が発言から分かる。 ⑭分かりやすいノートの書き方や要点をとらえたメモができる。 ⑮授業者と子どもの話す量の割合は，３（２）対７（８）。 ⑯板書から内容のまとまりやつながりを判断できている。 ⑱戸惑ったり分からなかったりしていた子どもが安心している。 ⑲学習形態の設定が，個に応じていて効果が見られる。 ⑳最後まで自分の考えを伝えようとしている。 ㉑子どもの表情が豊かである。
終末段階	②授業を効果的にまとめたり深めたりする，終末段階でのリフレクションを工夫できる。（リフレクション・評価） ㉒自らの見方・考え方の高まりを自覚できる振り返り活動を行うことができる。	②子どもが今日の自分は何をどのようにしたのがよかったのかを分かっている。 ㉒子どもが今日の自分は何をどのようにしたのがよかったのかを分かっている。

写真１：メンタリングの様子

メンティが自分の課題に応じてメンターを指名するメンタリングの様子

写真２：年齢構成が逆転したメンタリングの様子

自分より年齢の若い教諭をメンターとして指名するメンタリングの様子